

広域通信制 株式会社立 やまと高等学校

令和7年度（2025年度） 学校評価表

1 学校教育目標
<p>これまで蓄積されてきた実践的知見と先進的な情報通信技術とを融合させた新しいスタイルの教育を展開することで、健全な個性を伸長し、確かな学力を育む。日本人が大切に守り受け継いできた精神を学習の根底に据え、体験的な学習や特別活動を通して豊かな人間性を涵養するとともに、健康の増進と体力向上を図る。協働的で探究的な学習に取り組むことで、他者と協力して困難な課題を解決し、社会に寄与貢献しようとする、志高い人材を育成する。</p>

2 学校教育重点項目
<p>(1) 健全な個性を伸長し確かな学力をはぐくむ 多様なメディアを使い生徒の個性にあった教材を準備し課題提出や面接指導を通してすべての生徒に学習の機会を確保していく</p> <p>(2) 健康の増進と体力向上を図る 主に、面接指導・特別活動・学校行事を通して自身の健康体力に課題意識を持ちながら体力向上や健康増進に取り組む姿勢を養う。</p> <p>(3) 他者と協力して困難な課題を解決し、社会に寄与貢献しようとする志高い人材の育成 主に、特別活動、特に学校行事を通して地域社会とのつながりや、SDGsに係る諸問題に取り組みながら、様々な課題意識を持ちながら活動していく。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題	大項目
						小項目
学校経営	学校教育目標の理解と実践	通信教育実施計画に生徒が学習の機会を確保できる工夫がなされているか	多様なメディアを使い生徒の個性に合わせた授業形態を確保している	VODや授業動画を的確に提供する 添削課題の分量や内容について検討している	C	今年度文部科学省の点検調査において最も指摘された部分である。改善のための取組を進めている。
		特別活動の提供	教育目標に実現に向けた特別活動を設定し適切な時期に生徒へ提供している	本校で行われる各種行事の教育目的の明確化 郊外活動で行われる各種行事の教育目的の明確化 多様なメディアによって実施される特別活動での教育目的の明確化		
	学校教育重点項目の理解と実践	生徒の個性に応じた教材の選定や課題の設定	履修した単位を全生徒が履修できる	課題の提出状況を的確に把握している スクーリングや特別活動への参加状況を把握している	B	通信制課程の単位認定の根幹をなす部分であり、状況把握とともに保護者等との情報共有も大切である。
		健康の増進と体力向上	スクーリングや特別活動の適切な活動を行う	多くの生徒が参加できるように企画や機会を提供している		

		他者と協力して困難な課題を解決し、社会に寄与貢献しようとする志高い人材の育成	教育活動の中で協同的な学びや、社会的な学びを行う 特別活動は、社会や今日的課題を扱う	多様なメディアを使ながらも、主体的な学習態度を育成している 自然環境や社会問題に触れさせるような特別活動の実施	B	インターンシップやアルバイトといった社会との連携に係る活動は通信制課程の特徴ともいえる。個別案件で勤め社会的な活動を後押ししている。
	広報・生徒募集活動の推進	広域通信制についての周知広報活動・生徒募集	SNS・HPによる広報活動 生徒募集に関する、直接的募集活動	HPの更新によるリアルタイムな情報発信 SNSを使った情報発信 学校訪問による広報活動 個別相談会による広報活動 合同説明会による広報活動	B	HPのリニューアル・SNS広報活動の促進・オープンスクールの回数増加によって生徒募集活動を活発に行った。予算的な措置もあり、合同説明会への参加を見送った部分もあった。
学力向上	生徒の自己管理能力の向上	日常の学習活動の把握	単位認定に係る各種活動の把握と積極的参加	期限内添削課題提出への取組 面接指導の効果的活用 特別活動への積極的参加の勧誘	C	システム変更により生徒に向けた通知がうまく機能していない部分があり、一部の職員に大きな負担をかけることとなった。
	能動的学習態度の育成	多様な学習方法を駆使しての授業改善	多様な学習メディアを能動的学習態度の育成に視点を置いて活用している	VODや授業動画について能動的学習態度の育成に工夫をしている メディアを通しての授業の中で生徒参加型の授業を構成している	B	面接指導や添削課題の指導においては、生徒の活動に重点を置き期限内の課題提出に向けた指導が行われた。生徒の主体的な活動にもっと注力したい。
キャリア教育	進路意識の向上	早期の進路希望の決定	様々な学習活動の中での進路指導 進路学習を含めた特別活動	教科横断的な進路指導 進路希望を考慮した特別活動の企画	A	様々な場面で個別対応が求められている。個々の背景や環境に応じた進路指導の必要性がある。生徒自身の主体的な活動にも助けられている部分もあるが、教師の個別の働きかけが進路開拓に向けて効果を得ている。
	生徒の進路希望に沿った進路指導	生徒の進路希望に大切にしたい進路実現	生徒の個別事情に応じた進路相談 進路実現に向けた具体的な取り組み	生徒の生活背景を把握した進路相談 進路希望に連動した学習指導 就業体験や体験授業等の積極的活用		
	生徒の主体性の育成	カリキュラムマネジメントを意識した主体性の育成	授業改善の中で取り組み 学校行事の中での取り組み	生徒の活動を意識した授業運営をしている 生徒主体の行事運営になっている		
生徒指導	規範意識の向上	社会的な活動を通して規範意識の向上	教育活動の中で規範意識の涵養をする	教育活動全般に規範意識を意識した指導をしている	B	様々な課題を抱えている生徒の課題に応じた個別の対応が求められている。公共性や社会性を身に付ける事で社会生活に適應できる力を養っている。

いじめ対策	いじめ等の問題行動の未然防止等	担任・生徒指導部を中心とした組織的対応の徹底	丁寧な個人面談の実施	生徒の個性を十分に理解し組織的に対応している	A	風通しのいい集団作りをすることで情報をすぐにキャッチしその場の対応を行っている。SCや養護教諭の助力も大きい。
人権教育・生徒支援	互いを尊重する人権教育の推進	他者の考えを理解し共感する能力の育成	特別活動等での活動の中で互いに認め合う態度の醸成	体験発表等を通して、自己の成長につなげる指導の工夫	B	生徒理解のための研修を年間6回以上行っている。生徒の異動が年間に頻繁にあるため機会を覓て研修を行うことで共通理解に務めている。養護教諭やSCが持つ
	生徒理解の充実	専門的知識や経験を持つ専門的知見の活用	教育相談や養護教諭面談を通して心身両面に生徒の理解を促進する	SCや養護教諭の活動を積極的に活用し支援的立場に立った指導をしている	A	独自の情報もあるため限られた情報もあるが、担当者には丁寧に伝えることで事故等を未然に防ぐように努めている。
	特別支援教育の推進	生徒の状況を把握できる組織的体制づくり	個別面談の実施	生徒の背景も含めた生徒理解に努め特別支援教育を推進している	A	
地域連携との役割	地域特区設立校としての役割	教育特区の設立において適切な地域連携活動を行っている	教育特区に定めがある教育活動を適切に行った上で地域との連携活動を行っている	特別活動の中で地域と特色を取り入れた教育活動を行っている	B	教育特区にある学校として山都町との連携活動を意識して行っている。もっと活動の範囲を広げていきたい。

4 学校関係者評価

(1) 評価全体回答数は、昨年度N=4309個に対し本年度は生徒数の増加と共にアンケート回答促進の取組も功を奏してN=7722になった。質問方法は、4段階の選択方式で、マイクロソフトフォームによるウェブ回答とした。評価対象者総数は教師11、保護者164・生徒122の297人からの回答を得た。11月時点での調査対象者総数413人であるから約72%の回答を得たことになった。昨年度の回答率46%から、飛躍的な回答者数の増加を得られたこととなる。回答の信憑性を高めることにも繋がり好結果だと言える。要因としては、回答の開始を早め回答期限を長めに設定したこと、期限終了間際にもう一度催促の連絡を入れたことにも大きな要因があるといえる。質問数は、教師、生徒、保護者へともに26項目であった。最高評価4は、すべての項目を総合して昨年度の評価から1%上がり44%を得ている。2番目の評価と加算すると昨年度から4%アップの88%が肯定的評価を与えてくれた。昨年度目標値最高評価47%超えは達成できなかったものの、回答率のアップで回答の信頼度を上げたことができた。

(2) 職員評価では、昨年度低い評価となった学校経営の関連分野のアンケート結果において、改善されて特に教育目標の理解が進んでいた。比較的低い評価となった項目は、地域連携活動と生徒に実態把握に関する分野であった。地域連携の活動については昨年度より改善したものの、活動が限定されていることが要因と考えられる。また、生徒の実態把握に関する評価については、実際に表現しているもので、連絡がなかなか取れない生徒保護者が一定数在籍していることが要因と考えられる。

(3) 生徒評価からは、添削課題・面接指導・特別活動等の分野への活動について評価が高くいずれも、90%を超える生徒が肯定的評価を付けている。学校運営の根幹ともいえる事に対して、評価してくれたことは我々にとって自信が持てる結果となった。一方1割を超える生徒が否定的評価を付けた分野は生徒指導・生徒理解や進路指導等の教育領域に関する評価で、今後検討の余地はあるものの教育界共通の課題であるともいえる。

(4) 保護者評価では、学校満足度や学力向上で昨年度からさらに向上して肯定的評価が90%を超えることができた。昨年度課題として挙げた学校活動のPR活動では、月に一度の情報発信をするための新聞を発行したことや、SNSでの発信等で理解を得られた部分も多く学習活動や特別活動・学校行事についての理解度の評価は高まっている。生徒の評価同様、教育領域の分野の評価は否定的評価が1割を超えている。真摯に受け止め取り組んでいきたい。

5 総合評価

- (1) アンケート結果としては素晴らしい。アンケート項目の詳細について検証してより実際に近い結果を得ることも必要である。アンケート項目で自由記述の項目も追加することも検討する。最も評価できる点は回収率ではないか。
- (2) 進路指導について保護者に正確な情報が伝わっていないため、評価に影響している。特に保護者が自分の子どもの進学先を検討するときに、その学校の進路情報は重要な要素となる。情報の発信に工夫する必要がある。
- (3) 株式会社立の学校という強みを生かし、様々な社会環境を活かし生徒の成長に活かしている。中学校から入学した当初は卒業することが目標であったが、学校生活を送りながら、実社会の中で体験的な学習を経験し成長している。本校の魅力の一つとして評価できるものである。
- (4) 学校の様々な教育活動を、HPやSNSで拡散することは近年必要不可欠であるが、一方紙媒体での情報は、回覧により見ている人の周りの人にまで広げることができる。紙媒体としての情報拡散の方法も検討すべきである。
- (5) 地域連携についての評価項目に工夫が必要ではないか。山都町のことをどう思うかや、母校の所在地としての山都町のことをもっと知る必要がある。通信制の学校では、通学という日常が無い。その分、母校の地域という愛着が湧きにくいという面をカバーすることにも繋がる工夫をして欲しい。
- (6) 特別活動の機会を十分に作っていると感じた。特に社会体験にもつながる特別活動は通信制学校に通う生徒諸君に必要な要素である。今後も工夫をして継続してもらいたい。

6 次年度への課題・改善方策

- (1) アンケート分析では、回収率の飛躍的増加に高い評価を得た。電子回答でのアンケート回収率は低くなりがちで70%を叩き出すことは容易な事ではない。次年度もアンケート項目の内容改善とともに、回収率の向上に努め数値的目標としては回収率75%以上としたい。また、地域連携の項目では、具体的に山都町のことおについてのアンケート項目を加えていきたい。さらに、学校満足度の項目でも本年度に続き90%越を目指していきたい。
- (2) 進路実績としては、十分に達成できているという状況である。そこで、保護者に進路指導の現状を知らせるためにも進路実績を公表する。また、学校内でとどまっている活動報告等の紙媒体の広報を電子媒体の広報に加え広がりを持たせるように、生徒募集活動とも絡めて展開していく。
- (3) 職員研修の必要性については、文部科学省点検調査や学校評価委員会でも指摘された。臨時単発的な職員研修ではなく、年間計画に組み込んだ、多角的な職員研修の必要性が論じられたところである。そこで、次年度は5月・8月・11月・2月とテーマを絞った職員研修を行うことで、職員間の指導方法の共有や指導力の向上を図り、教科教育、領域教育ともに資質の向上を図っていく。